

3. 論文の採否：論文の採否は Editorial board のメンバーによる査読審査の結果に従い決定される。ただし、シンポジウムなどの記録や治験論文については編集部で採否を決定する。
4. 論文の訂正：査読審査の結果、原稿の訂正を求められた場合は、40日以内に、訂正された原稿に訂正点を明示した手紙をつけて、前記泌尿器科紀要刊行会宛て送付すること、なお、Editor の責任において一部字句の訂正をすることがある。
5. 採択論文：論文が採択された場合、原稿を3.5インチフロッピーディスク・MO ディスク・CD-R・CD-RW のいずれかに保存し、編集部へ送付する。ディスクには論文受付番号・筆頭著者名・機種名・ソフトウェアとそのバージョンを明記する。Windows の場合は MS-Word・一太郎、また Macintosh の場合は EG-Word・MS-Word とし、特に Macintosh においては MS-DOS テキストファイルに保存して提出すること。
6. 校正：校正は著者による責任校正とする。著者複数の場合は校正責任者を投稿時指定する。
7. 掲載：論文の掲載は採用順を原則とする。迅速掲載を希望するときは投稿時にその旨申し出ること。
  - (1) 掲載料は1頁につき和文は5,775円(税込)、英文は6,825円(税込)、超過頁は1頁につき7,350円(税込)、写真の製版代、凸版、トレース代、別冊、送料などは別に実費を申し受ける。
  - (2) 迅速掲載には迅速掲載料を要する。5頁以内は31,500円(税込)、6頁以上は1頁毎に10,500円(税込)を加算した額を申し受ける。
  - (3) 薬剤の効果、測定試薬の成績、治療機器の使用などに関する治験論文および学会抄録については、掲載料を別途に申し受ける。
8. 別刷：30部までは無料とし、それを超える部数については実費負担とする。著者校正時に部数を指定する。

#### Information for Authors Submitting Papers in English

1. Manuscripts, tables and figures must be submitted in three copies. Manuscripts should be typed double-spaced with wide margins on 8.5 by 11 inch paper. The text of all regular manuscripts should not exceed 12 typewritten pages, and that of a case report 6 pages. The abstract should not exceed 250 words and should contain no abbreviations.
2. The first page should contain the title, full names and affiliations of the authors, key words (no more than 5 words), and a running title consisting of the first author and two words.  
e.g.: Yamada, et al.: Prostatic cancer · PSAP
3. The list of references should include only those publications which are cited in the text. References should not exceed 30 readily available citations. Reference should be in the form of superscript numerals and should not be arranged alphabetically.
4. The title, the names and affiliations of the authors, and an abstract should be provided in Japanese.
5. For further details, refer to a recent journal.

#### 編 集 後 記

正月の帰省から京都に帰る新幹線の中で、数学者藤原正彦氏の「国家の品格」という新書を読んでいる。内容は、アメリカ流の論理重視、合理性優先の価値観から脱却し、日本人がはぐくんできた品のある情緒を見直すことで国際社会から尊敬される品位を取り戻そうという提案である。日本の武士道精神には、「もののあわれ」、「恥を知る」、「卑怯をよしとしない」などという、これまで日本人が大切にしてきた高い感性が集約されているという。また、数学のような論理最優先の学問ですら、最終的なキーポイントは美しいものを愛でる感性だそう。最近の耐震構造計算書偽造事件、また株の誤発注につけこんだ大儲け事件などを見ると、卑怯で恥を知らない日本人が増えていることは間違いないようである。7年前の教授就任の挨拶で「私は田舎育ちで教養もない粗野な人間ですが、卑にはなりません。」と同門会の皆さんの前で約束したことを思い出す。本の内容自体には賛否両論あろうが、これからの医療を牽引すべき皆さんには読む価値のある一冊かもしれない。

正月を郷里で過ごすのは20年ぶりである。中学校時代の同窓会に参加し、懐かしい顔に再会した。会社を興し社長さんになっているものも、すこし危なっかしい業界で働いているものもいたが、「おまえが出世頭だ。」と皆で喜んでくれた。ちなみに故郷を大切にすることという事も日本人の大切な感性のひとつだそう。

(小川 修)